

論文

カウンセリング技法「旅人ワーク」の受講満足度と利用意向度

倉田郁也 (佐久大学信州短期大学部)、森田裕美子 (宇都宮短期大学)
秋澤駿太 (社会福祉法人 とちぎ健康福祉協会)、益川順子 (宇都宮短期大学)

On Evaluation of Psychological Counseling Techniques, 'Tabibito Works'

Ikuya Kurata (Shinshu Junior College at Saku University),

Yumiko Morita (Utsunomiya Junior College)

Shunta Akizawa (Social Welfare Corporation Tochigi Health and Welfare Association)

Junko Masukawa (Utsunomiya Junior College)

Abstract: [Purpose]: This study aims to evaluate psychological counseling techniques of 'Tabibito Works,' which I have developed to deal with unconscious. [Method]: Participants of the lecture were 82 teachers of 39 nursery schools, 13 elementary schools, 13 junior high schools, and 5 high schools at a teaching license renewal lecture of Nagano prefecture in 2019. Four-point scale and self-administered questionnaires with 3 items were given on the final lecture of the course. Data were statistically analyzed from the view point of the self-evaluation of the teachers. There were three main research questions: 1)'Are you satisfied with the lecture, 'Tabibito Works'?' 2)'Do you want to use 'Tabibito Works' at school?', 3)'Does your school want to use 'Tabibito Works' at school?'. [Result]: All 31 teachers of the 5 high schools, the 13 junior high schools, and 13 elementary schools supported 'Tabibito Works' affirmatively on the all questions 1)2)3). [Consideration]: 'Tabibito Works' could be evaluated by 6 functions from the self-administered questionnaires; ① psychological assessment ② self-understanding ③ communication tools ④ educational lectures ⑤ building rapport ⑥ self-awareness. Also, there were 4 improvements of 'Tabibito Works'; (1) enough competence (2) incomprehensible works (3) enough time (4) manuals for using.

Key words: Tabibito Works, counseling techniques, unconscious

I. 背景

現在の心理療法や心理カウンセリングの現場では、「認知行動療法」、つまり、「意識」を扱い、「意識」の変容を目指すカウンセリング技法が重視されている¹⁾²⁾。

心理学では、物理学とは異なり、実体のない「心」を扱うため、その方法論として、クライアントの「主観的な経験」を統計的に検定することによって、「心」を検証可能なものにしてきた³⁾。例えば、カウンセリング効果を測定する場合、その対象をカウンセリング前後の

「意識」(主観的な意識)に絞って、実験結果を「意識化」された数字(心理学的質問紙)で収集し、その数字を統計的に分析し、カウンセリング効果を測定可能にした。つまり、心理療法や心理カウンセリングが「意識」を偏重する主な理由は、以下の3つである。

- (1)「意識」は、実験ができる。(統制可能性)
- (2)「意識」は、分析ができる。(測定可能性)
- (3)「意識」は、介入ができる。(反証可能性)

ところが、「心」には、「意識」だけでなく「無意識」もある(無意識仮説)⁴⁾。しかしながら、「無意識」を扱

うことには、以下のような根源的課題が存在している。

- (4) 無意識は実験が容易にできない (統制不可能性)
- (5) 無意識は分析が容易にできない (測定不可能性)
- (6) 無意識は介入が容易にできない (反証不可能性)

フロイトによると、精神分析とは、抑圧された心を意識に上らせる (無意識を意識化する) ことである⁵⁾。つまり、フロイトも、(4) の課題である「無意識を統制する」手法として、言葉を用いている。

また、心理カウンセリングの現場では、(5) 「無意識の測定」に、「投影検査」(バウムテスト、ロールシャッハなど) が使用される⁶⁾。「投影検査」とは、「あいまいな刺激」を用いて、クライアントに何らかの課題の達成を求める検査法で、「あいまいな刺激」に対しては、クライアントの「無意識」が投影されるという仮定に基づいて行われる⁷⁾。

しかしながら、この「投影検査」による、(5) 「無意識の測定」は、「経験を積んだ臨床家でないと使いこなせない⁸⁾」という、(2) 測定可能性の課題がある。また、「投影検査」は、あくまで、クライアントのアセスメント (心理査定) であって、カウンセリング効果、すなわち、(6) 「無意識の反証」を意図した技法ではない。

一方、(6) 「無意識の介入」に関する技法として、「ナラティブ・アプローチ」(Narrative Approach) が新しく実践されている⁹⁾。「ナラティブ・セラピー」(物語療法)では、「人はどんな経験にもストーリー性を求め、個々のエピソードはストーリーに合うように無意識的・恣意的に選別されるもので、ストーリーは将来の認識や行動に影響を与える」¹⁰⁾と考えられている。

このアプローチは、(4) 「無意識の統制」を可能にし、「無意識的語りを測定する」一面があるともいえるが、(2) 「意識を分析」(人生物語を測定) するものであることに変わりはなく、また、このアプローチの検証方法も、(3) 「意識への介入」(言語的コミュニケーション) を重視している^{11) 12)}。

言葉による「意識」を経由しない、あるいは利用しない技法 (6) 「無意識への介入」には、「アートセラピー (芸術療法)」がある。「アートセラピー (Art Therapy)」は、コミュニケーションの主要な方法として、「芸術」を媒体にする精神療法の一形態である¹³⁾。

「アートセラピー」が持つ特徴としては、「心の問題に焦点を当ててではなく、さまざまな媒体で楽しみながら表現することにより、心の中の豊かさや生命力、リソースなどの潜在的可能性を引き出す傾向があり、身体の実感を促進するため、感情との接触を促し、過去の感情

の浄化が観察される」¹⁶⁾ といったことが挙げられ、(4) 「無意識の実験」も可能である。

しかし、一方では、「非言語を取り扱うというアートセラピーの特性から、効果測定や体系化が難しい¹⁵⁾」など、(5) 「無意識の分析」という課題が存在している。

II. 目的

以上の先行研究から、筆者は「無意識」へアプローチできる手法を組み合わせれば、上述の課題を克服できるとの仮説を立てた。

つまり、(4) 「無意識の実験」ができる「アートセラピー」と「物語」の要素を取り入れ、さらに、(5) 「無意識の測定」ができる「投影検査」と「物語」の要素を応用し、そして、(6) 「無意識の介入」ができる「アートセラピー」の要素を組み合わせた方法として、筆者はカウンセリング・ワークブック「旅人ワーク」を開発した。

この無意識を扱う「旅人ワーク」は、学校のカウンセリング現場において利用されることを意図している。

そこで、この「旅人ワーク」を教員に対して行い、学校現場で「旅人ワーク」利用したいかどうかの意向調査を実施することを本研究の目的とした。

本研究は、長野県教員免許更新講習で行った「旅人ワーク」の講義を受講した教員の中から、本研究に対して協力の承諾を得られた教員に対して、「旅人ワーク」の受講満足度と、「旅人ワーク」を学校現場で利用したいかどうかの利用意向度を調査した。

III. 定義

カウンセリング技法「旅人ワーク」とは、クライアントが、(4) 「無意識の実験場」である「架空の物語」を主人公となって旅をし、次々と与えられる課題をクリアしながら (6) 「無意識への介入」として成長を遂げ、最終的に、宝物と呼ばれるクライアントにとっての気づき、(5) 「無意識の分析結果」を見つけないという、筆者が開発したカウンセリング・アドベンチャーブックのことである。(アドベンチャーブックとは、読者がファンタジー物語の主人公となって困難に立ち向かい、ロールプレイングゲームやアドベンチャーゲームを楽しむことができる本のことである。)

このカウンセリング・ワークブック「旅人ワーク」には、「投影検査」で使用される方法、例えば、木の絵を描く、風景の絵を描く、星と海の絵を描くなどのワーク

が設定されており、冒険をしながら、(5)「無意識の測定」も可能である。また、この試みは、「アートワーク」(芸術)の要素も含み、(6)「無意識の介入」も期待できる仕組みとなっている。

IV. 方法

2019年8月、長野県教員免許更新講習会終了後に、アンケートへの回答の協力を依頼した。

アンケートの内容は、フェイスシート(所属、年齢、教員歴、性別)、および、「旅人ワーク」を受講して「よかった」と思うか(受講満足度)、自分で「旅人ワーク」を使ってみたいかと、所属機関で「旅人ワーク」を使ってみたいか(利用意向度)の三項目について、それぞれ、①そう思う、②やや思う、③あまり思わない、④思わない、の4段階で回答を求めた。また、それぞれの項目について、その理由を自由記述で述べることを求めた。

調査協力者は、無回答を除く79人の教員、男性12人、女性61人、不明6人、有効回答率96.34%(表1)。所属機関は、幼稚園・保育園39人、小学校13人、中学校13人、高校5人、その他9人(表2)。年齢は、20歳代:6人、30歳代:39人、40歳代:12人、50歳代:15人、60歳代:5人、不明:2人(表3)。教員歴は、10年未満:28人、10年~20年:28人、20年~30年:14人、30年以上:6人、不明:3人であった(表4)。

分析方法は、spss(ver.24)を使用し、記述統計を行うとともに、「①そう思う」と「②やや思う」を「旅人ワーク」の肯定的支持高群、「③あまり思わない」と「④思わない」を低群として、 χ^2 検定を行った。また、自由記述は、同じキーワードの文章を集め、研究者間で概念を生成し、質的分析を行った。

| 所属 | 人 (%) |
|---------|-----------|
| n=70 | |
| 幼稚園・保育所 | 39 (55.7) |
| 小学校 | 13 (18.6) |
| 中学校 | 13 (18.6) |
| 高校 | 5 (7.1) |
| その他 | 9 |

| 性別 | 人 (%) |
|------|-----------|
| n=73 | |
| 男性 | 12 (16.4) |
| 女性 | 61 (83.6) |
| 不明 | 6 |

| 年齢 | 人 (%) |
|------|-----------|
| n=77 | |
| 20歳代 | 6 (7.8) |
| 30歳代 | 39 (50.6) |
| 40歳代 | 12 (15.6) |
| 50歳代 | 15 (19.5) |
| 60歳代 | 5 (6.5) |
| 不明 | 2 |

| 教員歴 | 人 (%) |
|--------|-----------|
| n=76 | |
| 10年未満 | 28 (36.8) |
| 10-20年 | 28 (36.8) |
| 20-30年 | 14 (18.4) |
| 30年以上 | 6 (7.9) |
| 不明 | 3 |

V. 倫理的配慮

調査協力者に、本研究の目的や方法、結果の処理、調査への協力は自由意思であることを文書および口頭で伝え、さらに、調査を協力する・しないにかかわらず、調査協力者は不利益を被ることがないこと、調査結果は研究の目的以外には使用しないことを文書および口頭で説明をした。また、調査票への回答は無記名とし、回収は、用意した回収箱に、自分で投函してもらうようにした。そして、調査によって得たデータが、研究協力者の評価に影響することはないこと、そして、プライバシーの侵害や、その他不利益をこうむることもない旨を記載し、文書および口頭で説明し、同意を得た。

VI. 結果

1. 小・中・高校教員の「旅人ワーク」受講満足度

「旅人ワーク」を受講した、小・中・高校の教員31人すべてから、受講して「よかった」との回答を得た。内訳は、「旅人ワークを受講してよかったか」との問いに、①そう思う25人(80.6%)、②やや思う6人(19.4%)だった(表2)。つまり、③あまり思わない、④思わな

いと回答は、一人もいなかった。

表 2. 小・中・高教員の「旅人ワーク」受講満足度 n=31

| 受講してよかった | 高校 教員 | 中学校 教員 | 小学校 教員 | 計 (人) (%) |
|----------|----------|-----------|-----------|--------------|
| そう思う | 4 | 12 | 9 | 25 (80.6) |
| やや思う | 1 | 1 | 4 | 6 (19.4) |
| あまり思わない | 0 | 0 | 0 | 0 (0) |
| 思わない | 0 | 0 | 0 | 0 (0) |

2. 小・中・高校の教員の「旅人ワーク」の利用意向度

次に、もし、「旅人ワーク」の教材 (30 章分) があつたら、あなたは「自分で」、幼児・児童・生徒・先生に対して、使ってみたいと思いますか、との質問に、小・中・高校すべての教員が、「自分で」旅人ワークを利用してみたいと答えた。内訳は、①そう思う (21 人、67.7%) ②やや思う (10 人、32.3%) だった (表 6)。つまり、③あまり思わない、④思わないとの回答は、一人もいなかった。

表 3. 小・中・高校教員の旅人ワーク利用意向度 n=31

| 自分で使ってみたい | 高校 教員 | 中学校 教員 | 小学校 教員 | 計 (人) (%) |
|-----------|----------|-----------|-----------|--------------|
| そう思う | 5 | 12 | 4 | 21 (67.7) |
| やや思う | 0 | 1 | 9 | 10 (32.3) |
| あまり思わない | 0 | 0 | 0 | 0 (0) |
| 思わない | 0 | 0 | 0 | 0 (0) |

3. 小・中・高校の教員の「所属機関」での「旅人ワーク」の利用意向度

そして、もし、「旅人ワーク」の教材 (30 章分) があつたら「所属機関」(カウンセリングルームを含む) で、使ってみたいと思いますか、との質問に、小・中・高校の教員すべてが、「所属機関で」旅人ワークを利用してみたいと答えた。内訳は、①そう思う (22 人、71.0%) ②やや思う (9 人、29.0%) だった (表 7)。つまり、③あまり思わない、④思わないとの回答は、一人もいなかった。

表 4. 小・中・高校教員の所属機関での「旅人ワーク」の利用意向度 (人) n=31

| 所属で使ってみた | 高校 教員 | 中学校 教員 | 小学校 教員 | 計 (%) |
|----------|----------|-----------|-----------|--------------|
| そう思う | 5 | 13 | 4 | 22 (71.0) |
| やや思う | 0 | 0 | 9 | 9 (29.0) |
| あまり思わない | 0 | 0 | 0 | 0 (0) |
| 思わない | 0 | 0 | 0 | 0 (0) |

4. 幼稚園・保育園教員の「旅人ワーク」受講満足度

一方、幼稚園・保育園の教員は、「旅人ワーク」を受講して「よかった」か、との問いに、47 人中、44 人 (93.6%) が、①そう思う 27 (57.4)、②やや思う 17 人 (36.2%) との回答だった。がしかし、47 人中 3 人 (6.4%) は、③あまり思わない (3 人、6.4%)、④思わない (0 人、0%) との回答だった。(表 5)

この③あまり思わないと答えた 3 人は、すべて教員歴 10～20 年の女性であった。

表 5. 幼・保教員の「旅人ワーク」受講満足度 n=45

| 受講してよかった | 人 | (%) |
|----------|----|--------|
| そう思う | 27 | (57.4) |
| やや思う | 17 | (36.2) |
| あまり思わない | 3 | (6.4) |
| 思わない | 0 | (0) |

5. 幼稚園・保育園教員の「旅人ワーク」の利用意向度

また、幼稚園・保育園教員に、「自分で」旅人ワークを使ってみたいか、と尋ねたところ、41 人中 27 人 (65.9%) が、①そう思う 10 人 (24.4%)、②やや思う 17 人 (41.5%) と答えた。がしかし、③あまり思わない 14 人 (34.1%)、④思わない 0 人 (0%) と答えた (表 6)。

表 6. 幼・保教員の「旅人ワーク」利用意向度 n=41

| 自分で使ってみたい | 人 | (%) |
|-----------|----|--------|
| そう思う | 10 | (24.4) |
| やや思う | 17 | (41.5) |
| あまり思わない | 14 | (34.1) |
| 思わない | 0 | (0) |

6. 幼稚園・保育園教員の所属機関での「旅人ワーク」利用意向度

そして、幼稚園・保育園教員に、「所属機関で」旅人ワークを使ってみたいか、と尋ねたところ、39人中23人(59.0%)が①そう思う0人(0%)、②やや思う23人(59.0%)であった。がしかし、③あまり思わない16人(41.0%)、④思わない0人(0%)と答えた(表7)。

表7. 幼・保教員の所属で旅人ワーク利用意向度 n=39

| 所属で使ってみたい | 人 | (%) |
|-----------|----|--------|
| そう思う | 0 | (0) |
| やや思う | 23 | (59.0) |
| あまり思わない | 16 | (41.0) |
| 思わない | 0 | (0) |

7. 教員歴と「旅人ワーク」受講満足度の関連

次に、教員歴と「旅人ワーク」受講満足度の関連を調べるために、「旅人ワーク」を受講して「よかった」群(①そう思う+②やや思う)と、「よくなかった」群(③あまり思わない+④思わない)の2群にわけ、 χ^2 検定を行ったところ有意であった($\chi^2=7.238$, $df=2$, $p<.05$)。

その内訳は、教員歴10年未満の28人中28人(100%)と、20年以上の教員20人中20人(100%)のすべての教員が、「よかった」と答えていた。

一方、教員歴10~20年の28人のうち、24人(85.7%)からは、「よかった」との回答を得た一方、4人(14.3%)からは、「よくなかった」との回答を得た。

つまり、この結果を見ると、教員歴10年未満と、20年以上の教員の方が、教員歴10~20年の教員より、「旅人ワーク」を受講して「よかった」と答えたと解釈することができる。(表8)

表8. 教員歴と「旅人ワーク」受講満足度 n=72

| 「旅人ワーク」を受講して | 10年未満 | 10~20年 | 20年以上 | 計(人)(%) |
|--------------|----------|----------|----------|----------|
| よかった | 28(100) | 24(85.7) | 20(100) | 68(94.4) |
| よくなかった | 0(0) | 4(14.3) | 0(0) | 4(5.6) |
| 計(人)(%) | 28(38.9) | 28(38.9) | 20(22.2) | 72(100) |

特に、「幼稚園・保育園」の教員歴と「旅人ワーク」受講満足度での関連で、 χ^2 検定を行っても有意であった($\chi^2=6.264$, $df=2$, $p<.05$)。

この内訳は、「幼稚園・保育園」の教員歴10年未満

18人中18人(100%)と、20年以上7人中7人(100%)のすべてが、「よかった」と答えた。

一方、「幼稚園・保育園」の教員歴10~20年の13人中10人(76.9%)からは「よかった」、3人(23.1%)からは「よくなかった」との回答だった。

つまり、この結果を見ると、「幼稚園・保育園」の教員歴10年未満と、20年以上の教員が、教員歴10~20年の教員より、「旅人ワーク」を受講して「よかった」と答えたと解釈することができる。(表9)

表9. 幼稚園・保育園の教員歴と受講満足度 n=38

| 「旅人ワーク」を受講して | 10年未満 | 10~20年 | 20年以上 | 計(人)(%) |
|--------------|----------|----------|---------|----------|
| よかった | 18(100) | 10(76.9) | 7(100) | 35(92.1) |
| よくなかった | 0(0) | 3(23.1) | 0(0) | 3(7.9) |
| 計(人)(%) | 18(47.4) | 13(34.2) | 7(18.4) | 38(100) |

8. 所属と「旅人ワーク」利用意向度の関連

所属と「旅人ワーク」利用意向度の関連を調べるために、所属を「小・中・高校」と「幼稚園・保育園」の2群に分け、また、「旅人ワーク」を自分で「使ってみたい」群(①そう思う+②やや思う)と、「使ってみたくない」群(③あまり思わない+④思わない)の2群にわけ、 χ^2 検定を行ったところ、有意であった($\chi^2=14.328$, $df=1$, $p<.001$)。

この内訳は、「小・中・高校」所属の31人中31人(100%)すべての教員が、「旅人ワーク」を自分で「使ってみたい」と答えた。

一方、「幼稚園・保育園」所属の41人中27人(65.9%)が、自分で「使ってみたい」であり、14人(34.1%)が、自分で「使ってみたくない」であった。

つまり、この結果を見ると、「小・中・高校」所属の教員の方が、「幼稚園・保育園」所属の教員より、「旅人ワーク」を自分で「使ってみたい」と答えたと解釈することができる。(表10)

表10. 所属と「旅人ワーク」利用意向度 n=72

| 「旅人ワーク」を自分で | 小・中・高校 | 幼稚園・保育園 | 計(人)(%) |
|-------------|----------|----------|----------|
| 使ってみたい | 31(100) | 27(65.9) | 58(79.7) |
| 使ってみたくない | 0(0) | 14(34.1) | 14(20.3) |
| 計(人)(%) | 31(44.9) | 41(55.1) | 72(100) |

9. 所属と所属での「旅人ワーク」利用意向度

所属と所属での「旅人ワーク」利用意向度の関連を調べるために、所属を「小・中・高校」と「幼稚園・保育園」の2群に分け、また、「旅人ワーク」を「所属で」使ってみたくない群（①そう思う+②ややそう思う）と、「所属で」使ってみたくない群（③あまり思わない+④思わない）の2群にわけ、 χ^2 検定を行ったところ、有意であった（ $\chi^2=16.486$, $df=1$, $p<.001$ 。）。

この内訳は、「小・中・高校」所属の31人中31人（100%）すべての教員が、「旅人ワーク」を「所属で」使ってみたくないと答えた。

一方、「幼稚園・保育園」所属の39人中23人（59.0%）が、「所属で」使ってみたくないであり、16人（41.0%）が、「所属で」使ってみたくないであった。

つまり、この結果を見ると、「小・中・高校」所属の教員の方が、「幼稚園・保育園」所属の教員より、「旅人ワーク」を「所属で」使ってみたくないと答えたと解釈することができる。（表 11）

表 11. 所属と所属で「旅人ワーク」利用意向度 n=70

| 「旅人ワーク」を所属で | 小・中・高校 | 幼稚園・保育園 | 計 (人) (%) |
|-------------|--------------|--------------|--------------|
| 使ってみたくない | 31 (100) | 23 (59.0) | 54 (77.1) |
| 使ってみたくない | 0 (0) | 16 (41.0) | 16 (22.9) |
| 計 (人) (%) | 31 (44.3) | 39 (55.7) | 70 (100) |

10. 年齢と所属での「旅人ワーク」利用意向度

年齢と「所属で」の「旅人ワーク」利用意向度の関連を調べるために、「旅人ワーク」を「所属で」使ってみたくない群（①そう思う+②ややそう思う）と、「所属で」使ってみたくない群（③あまり思わない+④思わない）の2群にわけ、 χ^2 検定を行ったところ、有意であった（ $\chi^2=11.198$, $df=4$, $p<.05$ 。）

内訳は、20歳代5人中5人（100%）、40歳代11人中11人（100%）、60歳代5人中5人（100%）の教員すべてが、「旅人ワーク」を所属で「使ってみたくない」と答えた。

また、30歳代38人中23人、50歳代14人中9人が、「使ってみたくない」と答えた一方、30歳代38人中15人、50歳代14人中5人が、「使ってみたくない」と答えた。つまり、この結果を見ると、20歳・40歳代・60歳代の教員の方が、30歳代・50歳代の教員より、「旅人ワー

ク」を「所属で」使ってみたくないと答えたと解釈することができる。（表 12）

表 12. 所属と所属で旅人ワーク利用意向度 n=73

| 所属で | 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳代 | 計 (人) (%) |
|-----------|------------|--------------|--------------|--------------|------------|--------------|
| 使ってみたくない | 5 (100) | 23 (60.5) | 11 (100) | 9 (64.3) | 5 (100) | 53 (72.6) |
| 使ってみたくない | 0 (0) | 15 (39.5) | 0 (0) | 5 (35.7) | 0 (0) | 20 (27.4) |
| 計 (人) (%) | 5 (6.8) | 38 (52.1) | 11 (15.1) | 14 (19.2) | 5 (6.8) | 73 (100) |

11. 「自分で」旅人ワークを「使ってみたくない」理由（自由記述）

「自分で」旅人ワークを「使ってみたくない」理由は、「4つ」の概念、①教員が生徒を知るために、②生徒が生徒自身を知るために、③コミュニケーションの道具として、④授業・道徳の時間・進路指導・職員会議・保護者会で使いたい、が抽出された。（表 13）

①教員が生徒を知るために :31 個

「愛情不足で攻撃的な対応を取る子」「問題を抱えていそうだが、なかなか話してくれない話せない児童へ」「相談に訪れた子どもで上手く関わらずに先が見えないと感じた時」など、31個の記述から、「①教員が生徒を知るために」と概念を生成した。

②生徒が生徒自身を知るために :7 個

「子どもたちは案外、自分自身を知りたがっている」「悩んでいることが何か自分でつかむ」「それぞれが自分をみつめるため有効だと思う」など、7個の記述から、「②生徒が生徒自身を知るために」と概念を生成した。

③コミュニケーションの道具として :13 個

「生徒とのコミュニケーションツールとして使用してみたい」「生徒と仲良くなりたいたい時」「コミュニケーションを取る教材として」など、13個の記述から、「③コミュニケーションの道具として」と概念を生成した。

④授業・道徳の時間・進路指導・職員会議・保護者会で使いたい :15 個

「授業でやってみたくない」「進路相談」「保護者」など、

15 個の記述から、「④授業・道徳の時間・進路指導・職員会議・保護者会で使いたい」と概念を生成した。

表 13. 「自分で」旅人ワークを「使ってみたい」理由

| 4つの概念 | n | 自由記述の内容 |
|----------------------------|----|--------------------------------|
| ①教員が生徒を知るために使いたい | 31 | 愛情不足で攻撃的な対応を取る子 |
| | | 問題を抱えていそうだが、なかなか話してくれない話せない児童へ |
| | | 相談に訪れた子どもで上手く関われずに先が見えないと感じた時 |
| ②生徒が生徒自身を知るために使いたい | 7 | 子どもたちは案外、自分自身を知りたがっている |
| | | 悩んでいることが何か自分てつかむ |
| | | それぞれが自分を見つめるため有効だと思う |
| ③コミュニケーションの道具として使いたい | 13 | 生徒とのコミュニケーションツールとして使用してみたい |
| | | 生徒と仲良くなりしたい時 |
| | | コミュニケーションを取る教材として |
| ④授業・道徳・進路指導・職員会議・保護者会で使いたい | 15 | 授業でやってみたい |
| | | 進路相談" |
| | | 保護者 |

12. 「自分で」旅人ワークを「使ってみたくない」理由 (自由記述)

「自分で」旅人ワークを「使ってみたくない」理由 (自由記述) は、「3つ」の概念、①時間が取れない、②実践できそうにない、③幼児には難しい、が抽出された。(表 14)

①時間が取れない:3 個

「時間がとりにくい」「ゆっくり時間を取ることが困難」「時間が長い」など、3 個の記述から、「①時間が取れない」と概念を生成した。

②実践できそうにない:7 個

「力不足でできない」「相等の研修をつまないと実践できそうにない」「やったあとの説明も大変そうなので」など、7 個の記述から、「②実践できそうにない」と概念を生成した。

③幼児には難しい:13 個

「私が受け持っている子供たちには難しいかな」「幼児相手だと難しい」「子どもにはやりづらい」など、13 個の記述から、「③幼児には難しい」と概念を生成した。

表 14. 「自分で」旅人ワークを「使ってみたくない」理由

| 3つの概念 | n | 自由記述の内容 |
|------------|----|----------------------|
| ①時間が取れない | 3 | 時間がとりにくい |
| | | ゆっくり時間を取ることが困難 |
| | | 時間が長い |
| ②実践できそうにない | 7 | 力不足でできない |
| | | 相等の研修をつまないと実践できそうにない |
| | | やったあとの説明も大変そうなので |
| ③幼児には難しい | 13 | 私が受け持っている子供たちには難しいかな |
| | | 幼児相手だと難しい |
| | | 子どもにはやりづらい |

13. 「所属機関で」旅人ワークを「使ってみたい」理由 (自由記述)

「所属機関で」旅人ワークを「使ってみたい」理由 (自由記述) は、「3つ」の概念、①教員が生徒を知るために、②生徒が生徒自身を知るために、③楽しくできるから、が抽出された。(表 15)

①教員が生徒を知るために:21 個

「問題がありそうな一部の生徒だけでもいいので」「子どもを理解する上で大いに役に立つと考えられるから」「生徒理解のためになると思う」など、21 個の記述から、「①教員が生徒を知るために」と概念を生成した。

②生徒が生徒自身を知るために:7 個

「自己分析は己を知ること、己を知ること己をコントロールする手段につながると思う」「人生において、自我のコントロールはとても大切だと思うので、楽しみながら自己分析できるのなら取り入れるのもよいと思う」「自分について知る機会というのは子供たちにとって役に立つ」など、7 個の記述から、「②生徒が生徒自身を知るために」と概念を生成した

③楽しくできるから:13 個

「ラポール形成のために」「子どもの気持ちをリラックスさせるため」「楽しみながらその子を理解したい」など、13 個の記述から、「③楽しくできるから」と概念を生成した

表 15. 「所属で」旅人ワークを「使ってみたい」理由

| 3 つの概念 | n | 自由記述の内容 |
|----------------|----|---|
| ①教員が生徒を知るために | 21 | 問題がありそうな一部の生徒だけでもいいので |
| | | 子どもを理解する上で大いに役に立つと考えられるから |
| | | 生徒理解のためになると思う。 |
| ②生徒が生徒自身を知るために | 7 | 自己分析は己を知ることで、己を知ることで己をコントロールする手段につながると思う。 |
| | | 人生において、自我のコントロールはとても大切だと思うので、楽しみながら自己分析できるのなら取り入れるのもよいと思う |
| | | 自分について知る機会というのは子供たちにとって役に立つ |
| ③楽しくできるから | 13 | ラポール形成のために |
| | | 子どもの気持ちをリラックスさせるため |
| | | 楽しみながらその子を理解したい |

14. 「所属機関で」旅人ワークを「使ってみたくない」理由 (自由記述)

「所属機関で」旅人ワークを「使ってみたくない」理由 (自由記述) は、「3 つ」の概念、①時間が取れない、②実践できそうにない、③幼児には難しいが抽出された。(表 16)

①時間が取れない:2 個

「組織としても時間不足で困難」「時間をかけてじっくり取り組みたいと思うが、その時間が現段階ではとれそうにない」など、2 個の記述から、「①時間が取れない」と概念を生成した。

②実践できそうにない:2 個

「自分に使いこなせるか分からない」「担任や担当者を越えて行う事が全体の理解が不十分な中では組織として困難です」など、2 個の記述から、「②実践できそうにない」と概念を生成した。

③幼児には難しい:13 個

「盛りだくさん内容過ぎて生徒が付いていけないような気がする」「まだ幼児には理解するのが難しいのではないと思う」「子どもたちが飽きてしまう気がします」など、13 個の記述から、「③幼児には難しい」と概念を生成した。

表 16. 「所属で」旅人ワークを「使ってみたくない」理由

| 3 つの概念 | n | 自由記述の内容 |
|------------|----|--|
| ①時間が取れない | 2 | 組織としても時間不足で困難 |
| | | 時間をかけてじっくり取り組みたいと思うが、その時間が現段階ではとれそうにない |
| ②実践できそうにない | 2 | 自分に使いこなせるか分からない |
| | | 担任や担当者を越えて行う事が全体の理解が不十分な中では組織として困難です。 |
| ③幼児には難しい | 13 | 盛りだくさん内容過ぎて生徒が付いていけないような気がする。 |
| | | まだ幼児には理解するのが難しいのではないと思う |
| | | 子どもたちが飽きてしまう気がします |

15. 「旅人ワーク」についての感想 (自由記述)

「旅人ワーク」についての感想 (自由記述) は、「5 つ」の概念、①楽しかった、②使ってみたいと思った、③マニュアルがほしい、④よくわからなかった、⑤自分のことがわかった、が抽出された。(表 17)

①楽しかった:12 個

「自分についてできたのは面白かった」「わくわくして大人も面白かったです」「大人も楽しく取り組めた良い内容だったと思います」など、12 個の記述から、「①楽しかった」と概念を生成した。

②使ってみたいと思った:9 個

「カウンセリングの扉を少し開けた気分になって嬉しいです」「30 章分知りたいです。自分でやってみたい!」「家に帰って子どもたちのためにしてみようと思った」など、9 個の記述から、「②使ってみたいと思った」と概念を生成した。

③マニュアルがほしい:11 個

「具体的な事例（解答例）と分析結果を少し紹介してもらえるとありがたい」「使用方法を習熟するのに時間や技術、指導者が必要になりそうで、実際には導入にためらうこともあるかなあと」「正直、全部やり方や分析を覚えるのは難しそうなのでマニュアルが必要だと思います」など、11 個の記述から、「③マニュアルがほしい」と概念を生成した。

④よくわからなかった:6 個

「説明が難しい。特に描いた図は難しい」「知識が乏しいので、やったことの結果がよく分かりません」「最後に答えがないので何のためにやるのか分からない」など、6 個の記述から、「④よくわからなかった」と概念を生成した。

⑤自分のことがわかった:17 個

「自分のことを見つめている気がした」「イメージを膨らませながら内面を知ることができた」「ただ、自分が今回やっていて、困難が分かるだけに（課題心理）心が苦しくなることが分かりました」など、17 個の記述から、「⑤自分のことがわかった」と概念を生成した。

| | | |
|-------------|----|--|
| | | 正直、全部やり方や分析を覚えるのは難しそうなのでマニュアルが必要だと思います。 |
| ④よくわからなかった | 6 | 説明が難しい。特に描いた図は難しい |
| | | 知識が乏しいので、やったことの結果がよく分かりません。 |
| | | 最後に答えがないので何のためにやるのか分からない |
| ⑤自分のことがわかった | 17 | 自分のことを見つめている気がした |
| | | イメージを膨らませながら内面を知ることができた |
| | | ただ、自分が今回やっていて、困難が分かるだけに（課題心理）心が苦しくなることが分かりました。 |

Ⅶ. 考察

「旅人ワーク」の受講ターゲットである、小・中・高校の教員 31 人すべてから、「旅人ワーク」について、肯定的支持を得る結果となった。

また、自由記述の結果から、「旅人ワーク」には、①教員が生徒を知るためのアセスメント機能があり、そして、②生徒が生徒自身を知る（自己理解）のための機能も持ち、さらに、③教員と生徒のコミュニケーションの道具（ツール）としても機能し、そして、④授業・道徳の時間・進路指導・職員会議・保護者会でのカウンセリング教育の機能が期待され、加えて、教員と生徒が⑤楽しくできるため、ラポール形成に役立ち、⑥さらに、教員自身が自分のことを理解できる（自己覚知）ことが示唆された。

これらの結果から、「旅人ワーク」が、小学校・中学校・高校で実用化される可能性が示唆された。

一方、「旅人ワーク」を受講した 39 人の幼稚園・保育園教諭のうち、一部の教員からは、「旅人ワーク」について、不支持を得る結果となった。その内訳は、「旅人ワーク」の受講については、「良くなかった」と答えた 3 人。自分で「旅人ワーク」を使ってみたいか、との問いに、「使ってみたくない」と答えた 7 人。所属機関で「旅人ワーク」を使ってみたいか、との問いに、「使ってみたくない」と答えた 8 人であった。

また、統計的にも、幼稚園・保育園教諭と小・中・高校の教員では、「旅人ワーク」の受講満足度と利用意向

表 17. 「旅人ワーク」についての感想（自由記述）

| 5 つの概念 | n | 自由記述の内容 |
|---------------|----|---|
| ①楽しかった | 12 | 自分についてできたのは面白かった。" |
| | | わくわくして大人も面白かったです。ありがとうございました。 |
| | | 大人も楽しく取り組めた良い内容だったと思います |
| ②使ってみてみたいと思った | 9 | カウンセリングの扉を少し開けた気分になって嬉しいです |
| | | 30 章分知りたいです。自分でやってみたい! |
| | | 家に帰って子どもたちのためにしてみようと思った。 |
| ③マニュアルがほしい | 11 | 具体的な事例（解答例）と分析結果を少し紹介してもらえるとありがたい |
| | | 使用方法を習熟するのに時間や技術、指導者が必要になりそうで、実際には導入にためらうこともあるかなあと。 |

度について、有意差があった(表 10、表 11)。

この結果は、「旅人ワーク」が、小学生の高学年から高校生・成人を対象につくられたものであるため、当然と結果と考える。

しかし、「旅人ワーク」は、成人も対象としているため、受講した幼稚園・保育園教諭が、幼稚園・保育所で、幼児を対象とした場合を想定して、回答していることから、導き出された結果であると考えられる。

よって、今回の講義では、「旅人ワーク」の適用年齢を明確に伝え、そして、「旅人ワーク」は、幼児が対象ではなく、教員間や保護者に適用でき、さらに、自分自身の自己覚知にも役立つことを伝えてから、「旅人ワーク」を実施する必要があると考える。

また、「旅人ワーク」受講後に配布するアンケート紙の内容も、幼児が対象でなく、教員間や保護者、自分自身の自己覚知に関する内容を盛り込む必要がある。

加えて、自由記述の結果から、「旅人ワーク」の実用化には、①実践できそうにない(教員の力量の問題)や、②よくわからなかった(理解不能)な面があり、そして、③時間が取れない(時間の問題)があるため、④マニュアル(規格)を作成し、これらの問題を克服する必要がある。

さらに、教員歴の差で、「旅人ワーク」の受講満足度に有意差があった(表 8、表 9)。その内訳は、「幼稚園・保育園」の教員歴 10 年未満の 18 人と、教員歴 10~20 年の教員の 10 人と、20 年以上の教員 7 人が、「旅人ワーク」を受講して「よかった」と答えたのに対し、教員歴 10~20 年の教員 3 人が「よかった」と答えなかった。加えて、年代別で、「所属で」の旅人ワークの「利用意向度」に有意差があった(表 12)。この内訳を見ると、20 歳 5 人・30 歳代 23 人・40 歳代 11 人・50 歳代 9 人・60 歳代 5 人の教員が、「所属で」旅人ワークを「利用したい」と答えたに対し、30 歳代 15 人・50 歳代 5 人の教員が、「所属で」旅人ワークを「利用したい」と答えなかった(表 12)。

つまり、幼稚園・保育園教諭の教員歴 10~20 年の 3 人と、30 歳代 15 人・50 歳代 5 人の教員が、「旅人ワーク」の受講満足度と利用意向度が低かったことがわかった。

この結果も、上述した通り、「旅人ワーク」が、幼児を対象につくられたものでないため、当然の結果と考える。つまり、幼稚園・保育園の現場で、最前線で働いている「中堅層」(教員歴 10~20 年の 3 人と、30 歳代 15 人)や、現場の「管理者層」(50 歳代 5 人)に、「旅人

ワーク」は乳幼児には「使えない」との先入観を与え、不評であったと考える。

よって、今回の「旅人ワーク」講座では、実施前に、「旅人ワーク」の対象年齢(小学校高学年~成人)を保育所・幼稚園教諭に説明する必要がある。

加えて、「旅人ワーク」は、教員・職員のための「自己覚知」のツールとして使用できることを伝え、「旅人ワーク」の使用意図を理解してもらうこととする。

VIII. 本研究の限界

「旅人ワーク」の講習は、今回が初めてであり、まだ、プレ調査の段階である。「旅人ワーク」の実用化に向けて、カウンセリング技法「旅人ワーク」を改良し、「旅人ワーク」講習の内容も改善し、調査を継続的に実施していく必要がある。

[文献]

- 1) 厚生労働省「うつ病の認知療法・認知行動療法マニュアル」2009 2019.10.18 参照
<https://www.mhlw.go.jp/bunya/shougaihoken/kokoro/dl/01.pdf>
- 2) 厚生労働省「不安障害の認知療法・認知行動療法マニュアル」2015 2019.10.18 参照
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaihashukushi/kokoro/index.html
- 3) ミック・クーパー、清水幹夫・末武康弘(監訳)『エビデンスに基づくカウンセリング効果の研究 クライアントにとって何が最も役に立つのか』2018、pp20、岩崎学術出版社
- 4) 新宮一成(監修)『フロイト全集 14』2010、pp234、岩波書店
- 5) 鷺田清一(監修)『フロイト全集 16』2010、pp94-95、岩波書店
- 6) 総合心理教育研究所・東京セリエセンター「心理検査の種類と方法」
<http://www.sipe-selye.co.jp/lectures/cat66/post-24.html>
2019.10.18 参照
- 7) 安香宏(編集)、村瀬孝雄(編集)、大塚義孝(編集)『臨床心理学大系(第 6 巻)人格の理解』、1992、金子書房
- 8) 山本和郎『心理検査 TAT かかわり分析—ゆたかな人間理解の方法』1992、東京大学出版会

- 9) 野口祐二編『ナラティブ・アプローチ』2009、勁草書房
- 10) 早川正祐「ナラティブ・セラピーとケア：当事者の物語の重視とは何か」東京大学大学院応用倫理・哲学論集(4), 83-97, 2009
- 11) マイケル・ホワイト、デビット・エプストン、小森康永(翻訳)『物語としての家族』1992、金剛出版
- 12) 安林奈緒美「健康相談活動におけるナラティブ・アプローチとその有用性」2006、名古屋市立大学人間文化研究、6号
- 13) British Association of Art Therapists 「What is Art Therapists? 2019.10.18 参照
<http://www.baat.org/About-Art-Therapy>
- 14) 小野京子『表現アートセラピー入門』.2005、誠信書房
- 15) アートセラピーの教科書「アートセラピーとは」
<https://art-method.net/what/art/>
2019.10.18 参照